

平成24年度東北地域マッチングフォーラム

—震災からの復興、さらにその先を目指して—

プ ロ グ ラ ム

平成24年11月30日(金) 13:00~17:15


(受付開始 12:00)

仙台市広瀬文化センター ホール

(仙台市青葉区下愛子字観音堂5)

主催 農林水産省 農林水産技術会議事務局
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター

後援 農林水産省 東北農政局
宮城県
JA全農みやぎ
NOSA I宮城
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
日本農業新聞

 河北新報社

平成24年度東北地域マッチングフォーラム

— 震災からの復興、さらにその先を目指して —

全体司会

(独) 農研機構 東北農業研究センター 企画管理部長 今川 俊明

1. 開 会 13:00

2. 挨拶 13:00~13:10

農林水産省 農林水産技術会議事務局

(独) 農研機構 東北農業研究センター所長

3. 基調講演 13:10~13:50

近未来の東北農業の基盤強化を実現させる震災復興の取り組み

農林水産省 東北農政局 生産部長 丸山 恵史

東日本大震災からの復旧・復興への歩みは途に就いたところですが、被災地では、震災以前に“復旧”させるだけでなく、大規模な園芸生産施設や園芸団地の整備、農地の除塩とあわせたほ場の大区画化等、将来を見据えての農業経営の飛躍的發展や地域農業の大胆な再編に向けた“復興”への取り組みも始まっています。こうした近未来の東北農業の基盤強化を実現させる震災復興の取り組みについて紹介します。

4. 話題提供 13:50~16:00

司会 (独) 農研機構 東北農業研究センター 畑作園芸研究領域長 田村 有希博

(1) プラウ耕乾田直播体系が拓く新しい水田農業 13:50~14:20

(独) 農研機構 東北農業研究センター 生産基盤研究領域 上席研究員 大谷 隆二

実証試験協力農家 (東松島市) (有) アグリードなるせ 代表取締役社長 安部 俊郎

農山漁村地域復興基盤総合整備事業では、1haを基準とするほ場整備が進められており、これまでにない大規模な経営が数年のうちに生まれることも予想されます。ここでは、大規模経営に適したプラウ耕乾田直播体系の技術内容とコスト削減効果を説明し、東松島市の津波被災地域で今年度より本体系を導入した経営を含め、東北地域での導入事例を紹介します。

(2) 大規模経営を可能にする「稲-麦-大豆3年4作体系」への挑戦 14:20~14:45

宮城県古川農業試験場 水田利用部水田輪作班 上席主任研究員 星 信幸

宮城県内の大規模ほ場で実証してきたコスト半減輪作技術としての2年3作体系(麦-大豆-水稻)を、沿岸被災地慣行の中区画ほ場及び品種での適応性を検証・実証すると同時に、水田転作率1/3を踏まえた大規模水田作経営を見据え、省力的な乳苗移植栽培法を組合せた3年4作体系による低コスト輪作技術の実証展開について報告します。

(3) イチゴの周年生産性を向上させるクラウン温度制御技術 14:45~15:10
宮城県農業・園芸総合研究所 園芸栽培部 上席主任研究員 高野 岩雄
施設園芸の復興が進む宮城県の被災地で導入されつつある施設イチゴのクラウン温度制御技術について紹介します。本技術は、チューブに冷水や温水を流してイチゴのクラウン（株元）だけを直接冷やしたり、暖める技術です。冷却すると花芽分化が安定し、果実も大きくなります。また、暖めると葉の展開が早くなり、次の花房も早く出てきます。

(4) 東北の気象を活かした夏秋どりイチゴで産地活性化 15:10~15:35
(独)農研機構 東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 主任研究員 山崎 浩道
夏秋期（7~10月）は国産イチゴの端境期であり、この間の需要は輸入に依存しているため、国内での増産が強く求められています。この夏秋期国内生産を阻害している最大の要因は夏期の高温ですが、夏期冷涼な東北地域は夏秋栽培の適地です。この優位性を活かすため、新品種の育成や栽培技術の開発を実施しており、その成果の概要を報告します。

(5) トマトの新ジャンル、クッキングトマトで産地を元気にしよう 15:35~16:00
(株)いざなみ 取締役 山口 憲一
被災地への農業支援は出来ないものかと模索していたメンバー達がクッキングトマト「すずこま」と出会い、「株式会社いざなみ」を設立した経緯を紹介します。また「すずこま」の可能性と将来性に期待を込め、普及とブランド化を目指す取り組みにつき、これまでの活動を紹介し今後の展望にも触れます。

〈休憩・ポスター展示／個別相談〉 16:00~16:15

5. 総合討論 16:15~17:15

座長：(独)農研機構 東北農業研究センター 畑作園芸研究領域長 田村有希博
コメンテーター：宮城県仙台地方振興事務所 農業振興部 農業普及指導専門監 菅原 英俊
(有)アグリードなるせ 代表取締役社長 安部 俊郎

6. 閉 会 17:15

◇開発技術の展示・相談コーナー（開会前12:00-12:50、休憩時16:00-16:15）

被災地の復興と再生のために活用可能な近年の開発技術と体系化事例をポスター等により展示・紹介するとともに、技術相談を行います。

※「(独)農研機構」は「独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構」の略。

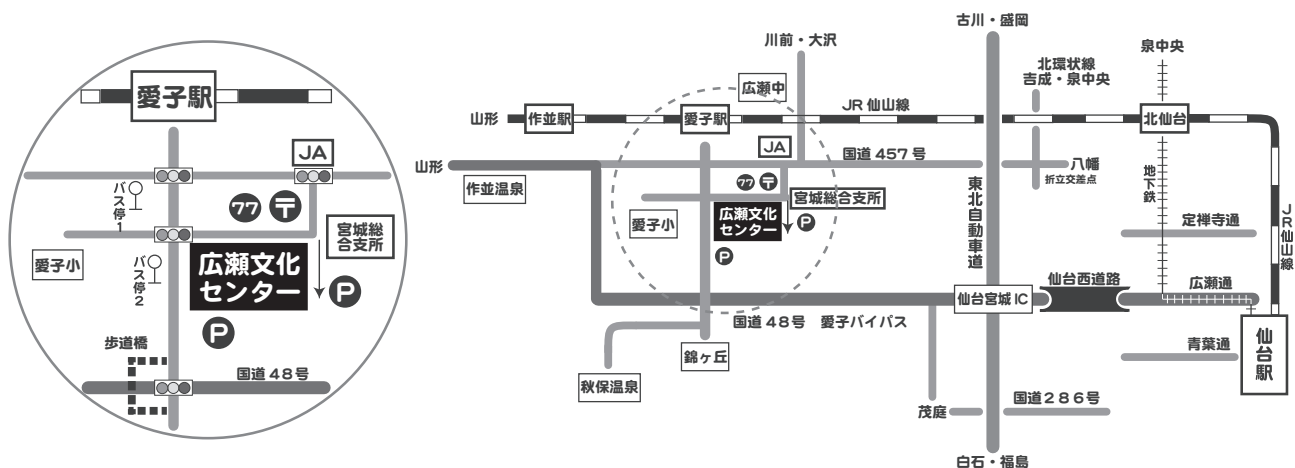
〔会場案内〕

仙台市広瀬文化センター ホール

宮城県仙台市青葉区下愛子字観音堂5 (〒989-3125)

電話 022-392-8401

〔会場へのアクセス〕



JR 仙山線

仙台駅発 (⑦、⑧のりば) — 愛子、作並、山形行き乗車 (愛子駅まで約30分 片道320円)

山形、作並駅発 — 仙台行き乗車

愛子駅下車 徒歩7分

バス 仙台市営

仙台駅前発 (⑩のりば) — 作並温泉、白沢車庫、定義行き乗車 (愛子駅前まで約40分、片道590円)

作並温泉、白沢車庫、定義発 — 仙台駅前行き乗車

愛子駅前下車 (地図バス停1) 徒歩5分

愛子観光

仙台駅前発 (リッチモンド・ホテル・プレミア仙台前) — 錦ヶ丘八丁目行き乗車 (宮城総合支所前まで約25分、片道450円)

錦ヶ丘八丁目発 — 仙台駅前行き乗車

宮城総合支所・愛子小学校前下車 (地図バス停2) 徒歩3分

車 仙台市中心部から

仙台西道路～国道48号線愛子バイパスを山形方面へ

愛子駅の案内表示がある交差点 (歩道橋あり) を右折

山形、作並方面から

国道48号線を仙台方面へ

愛子駅の案内表示がある交差点 (歩道橋あり) を左折

東北自動車道仙台宮城 IC から約10分

〔問い合わせ先〕

(独)農研機構 東北農業研究センター 企画管理部情報広報課

電話 : 019-643-3414

FAX : 019-643-3588

e-mail : www-tohoku@naro.affrc.go.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。